

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	4
施設名	葛飾区双葉保育園
施設所在地	葛飾区東堀切1-15-16
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水（水の流れ）

<テーマの設定理由>

安全に水遊びを行える環境にある特徴を活かし、「水」をテーマとして設定する。
「水」は、子どもたちが日常生活で触れる身近なものであり、全クラスで親しみ、楽しめる素材である。また、様々な形状に変化するので子どもたちの中で、イメージや探求心が広がりやすいと考えたため。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定
令和7年7月：必要物品等実施準備
令和7年7月～8月：実施
（内訳：7月1回、8月1回、計2回）
令和8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・保育士がわくわく水流しセットを設定したり、子どもたちが組み立てたりする。
- ・様々な道具を使って水を流してみたり、レールに傾斜をつけるなど、水量、速さなどを探求できるようにする。
- ・わくわく水流しセットや水車、手作りプラカップタワーなどを用意し、バケツ、柄杓、じょうろ、コップ、牛乳パックなどの水を流す道具や、ボール、ペットボトルのキャップなど水の中で転がす道具などを用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

砂山で水を流して楽しんでいる姿があったので、わくわく水流しセットを購入した。「こういうのあるよ」「水流してみたらどうなるかな?」を問いとして水の流れをねらいとした活動を行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

<5歳>

- ・じょうろや牛乳パックを使って筒に水を流していく。
- ・ボールを流していく楽しさの中で、たくさんの水量が必要なことに気付いていく。
- ・ボールを流すときに、初めは手でボールを止めて流していたが、牛乳パックの中にボールと水を一緒に入れて流す姿に変化していく。

<4歳>

- ・端から流れ落ちてしまう水をなんとか堰き止めようと牛乳パックやバケツで止めようとする。
- ・筒の片方を持ち上げることで水がもっと流れることに気がつく。
- ・「ジェットコースターみたいにしたい」と具体的なイメージを持ちながらやろうとする子が出てくる。

<3歳>

- ・流れる水をシャベルを使って堰き止める姿がある。
- ・斜めに置いたスロープの下に水をかけ、上に流れていくことを期待している姿がある。
- ・流れる水を"止める"ということが楽しいのか、スロープの上の方に手を置いて遮断する姿がある。
- ・水を流す量を多くすれば更に早く流れると分かったのか容器を大きいものにし、流すことを楽しむ等、自分で何が楽しいかみつけて集中する姿がある。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

< 5 歳 >

- ・イメージを共有しながら遊ぶ姿があり、自分たちで工夫する姿が見られる。
- ・リーダーシップを取る子を中心に、遊び・水の流れ（遊び）が展開され遊んでいる過程で自然と子どもたちのなかで役割分担がうまれていた。
- ・2レーン作り、競争する姿があり、流れのスピードに気づいて遊ぶ姿があった。

< 4 歳 >

- ・大人の援助を受けながらも、自分たちで試行錯誤する姿が見られる。
- ・遊んでいる過程で役割分担ができ、遊び、水の流れ（遊び）が展開していく姿があった。
- ・遊び終わった後に子どもたちに何に気付いたかを聞くと「斜めにすると流れた」「平らだとあまり流れない」「隙間があると水が溢れてしまう」「斜めにするとジェットコースターみたいに流れる（流れが速くなる）」という発見が出てきた。また、レールをもっとたくさん繋げたい、テープでレールを貼ると繋がって水が流れやすいのではないか、次はもっと支えるものが必要、船を作って流してみたいなど次にどうしたいかという考えも出てきた。

< 3 歳 >

- ・大人の援助を受けながら、水の流れを楽しむ姿が見られる。
- ・遊んでいる過程で役割分担ができるものの、各自、水の流れ（遊び）を無我夢中で楽しむ姿がある。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	4
施設名	葛飾区双葉保育園
施設所在地	葛飾区東堀切1-15-16
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水（色水）

<テーマの設定理由>

安全に水遊びを行える環境にある特徴を活かし、「水」をテーマとして設定する。
「水」は、子どもたちが日常生活で触れる身近なものであり、全クラスで親しみ、楽しめる素材である。また、様々な形状に変化するので子どもたちの中で、イメージや探求心が広がりやすいと考えたため。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定
令和7年7月：必要物品等実施準備
令和7年8月～11月：実施
（内訳：8月1回、10月1回、11月2回、計4回）
令和8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定として、マグボトル、計量カップ、ペットボトル、プラカップ、手作りプラカップタワーなど透明性のある道具や食紅（赤・青・黄・緑）を用意する。
個別の容器を用意することで一人ひとりがじっくり観察できる環境にしていく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「赤・青・黄・緑を混ぜたらどんな色ができるかな？」を問いとして設定する。
赤・青・黄・緑の色水を使って色の混ざり具合を観察したり、色の組み合わせによって様々な色の変化を探求する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

<4・5歳>

- ・色水の入った2ℓペットボトル（赤・青・黄色）と、ピッチャー（赤・青・黄色）を用意
→色同士重ね合わせることでどのように色が変化するのか予想し、変化に驚いたり、予想が当たった事を喜んだりする。
- ・色水タワーを使って色の変化をみる（保育士が手本になる）
→色の変化に驚いたり不思議がったりする。
- ・変化していく色水を虹、パイナップル、お茶、ビールなど例える姿がある
- ・面白い説明をする子もいた。
↓色水をいっぱい入れたら溺れそうになって（溢れそうになって）面白かった
↓赤と青で紫になった（次にやったら反転していた（赤紫になった））
→実験みたいでお勉強みたいだった

<3歳>

- ・色水を2つ混ぜて自分のジュースを作る色水遊びをする。
- ・赤、青、黄、緑と4色の中から二つ選んでカップに入った色水をもらい、自分のボトルに注いで混ぜ合わせる。
- ・保育士が食紅でそれぞれの色水を作るところから興味津々で一人ずつボトルを持って期待いっぱい始まった。
- ・赤と緑を混ぜて茶色のようになり「コーラみたい」と色を表現する。
- ・「同じだね」と友だちのものと見比べている。
- ・黄色と緑を混ぜて「メロンジュースです」と話す。
- ・「きれい」「変わったね」などと言いながら自分のボトルジュースを大事そうに眺める。
- ・本当にジュースとして飲めると思っていた子もいた。
- ・一見同じ色に見えた緑だが、黄緑と青緑で少し違う色になったことに皆で気づく。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

<5歳>

- ・実際に自分たちでやってみること、マイボトルがあることに喜んでいました。
- ・自由な発想で友だちと相談しながら色水を入れる姿がある。
- ・自由な発想の中で自然と協力し合う姿がある。
- ・赤と青を混ぜると紫になるなど知識を持っている子がいる。
- ・色の見え方を共感しあう姿がある。
- ・保育士が話していた内容を自分たちで試そうとする姿がある。

<4歳>

- ・実際に自分たちでやってみること、マイボトルがあることに喜んでいました。
- ・実際に自分たちで各色水が入ったボトルと色水タワーを使い、色を混ぜてみる。
 - はじめは保育士の手本通りに一色ずつ混ぜていく姿がある。
 - 慎重に色水を入れる子もいれば、一気に溢れるくらい入れる子もいる。
 - 一気に溢れて倒すこともあったが、数回入れていく毎に量の加減がわかるようになる。

<3歳>

- ・ボトルにカップから自分で注ぐということでこぼさないように真剣なため、色の変化は全てを注いだ後に気づく。
- ・少しずつ入れながら経過を確かめていた。
- ・「このジュースどうするの?」と聞くので次回、自分のジュースでスライム作りに繋がった。
- ・時間をおいて何色を混ぜたら何色になったか?を尋ねていくと、分からなくなってしまった子もいたが多くの子が覚えており、出来上がったジュースを見比べ同じ色のものを集め「〇〇ちゃんと同じ色だね」などと確認していく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	4
施設名	葛飾区双葉保育園
施設所在地	葛飾区東堀切1-15-16
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水（形状の変化①スライム）

<テーマの設定理由>

安全に水遊びを行える環境にある特徴を活かし、「水」をテーマとして設定する。
「水」は、子どもたちが日常生活で触れる身近なものであり、全クラスで親しみ、楽しめる素材である。また、様々な形状に変化するので子どもたちの中で、イメージや探求心が広がりがりやすいと考えたため。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定
令和7年7月：必要物品等実施準備
令和7年8月～12月：実施
（内訳：10月1回、11月1回、12月1回、計3回）
令和8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定として、食紅（赤・青・黄・緑）、洗濯のり、ホウ砂、スプーン、クリアカップ、ストローなどの道具を用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

テーマ水の流れ、テーマ色水をやってみて「水は掴めたりするのかな?」「水は固まったりするのかな?」を問いとして設定する。

色水からスライムを作る。

保育士がスライムを作る過程を見ながらスライム遊びを十分に経験したうえで、子どもたちが自分でスライムを作り、変化を体感できるように繋げていく。

スライムの感触を試したり、スライムの形を手や道具で試したりしながら形状の変化を探求する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

<4・5歳>

- ・前回の色水の経験から、一人ひとりにボトルを渡し、赤青黄の3色で色を作る。
- ・紫色にしたかったが、うまくいかずにいると、うまく紫になった子が配分を教えていた。
- ・「ピンクが良かった」と言い、友だちに教えてもらう姿があった。
- ・色水では、ボトルを手で持っている時と、窓に向けている時と、ボトルを下から覗いた時との違いを喜んでた。
- ・洗濯のり、ホウサ水を入れ徐々に形状が変わって行く事に、一回一回驚き感想を声に出していた。
- ・豊かな発想も感じた。作ったオリジナルのスライムで、感触を楽しみながら、遊んでいた。

<3歳>

- ・水、洗濯のりを合わせ混ぜながら「みずみたいだね。」と言って覗き込み、食紅の粉少量で色づいた様子に「わあ!」と声があがる。
- ・保育士がホウサ液を入れて混ぜ合わせてから交代で混ぜると、水の状態から粘りが出てきて「わあ、伸びた!」と驚く。
- ・触れているうちに段々まとまってきて手にもつかなくなり、広げて指の後をつけたり、できた形を「おばけ」「ハート」と名づけたり、伸ばすことを十分楽しんでいた。
- ・青の食紅を入れると「このかき氷食べたよ!」と話したり、割り箸に少しずつ塊がくっついてくる様子を見て、「おー!」「綿あめみたいだね。」と興味津々で見ている
- ・スライムは少しの配合の差で色によって硬さに違いがあり、青は中の泡が透けて海のように見えたり、少し柔らかめだった感触が気持ち良かったのか、長い時間楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・液を足すごとに塊となって割り箸に絡みつくようになると、「重くなってきたよ。」と変化を体感できたようである。
- ・回を重ねるごとに遊び方が変わり、机の縁にスライムをつけ、自然と下に垂れていく様子を研究しているかのような様子があった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	4
施設名	葛飾区双葉保育園
施設所在地	葛飾区東堀切1-15-16
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水（形状の変化②氷）

<テーマの設定理由>

安全に水遊びを行える環境にある特徴を活かし、「水」をテーマとして設定する。
「水」は、子どもたちが日常生活で触れる身近なものであり、全クラスで親しみ、楽しめる素材である。また、様々な形状に変化するので子どもたちの中で、イメージや探求心が広がりにやすいと考えたため。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定
令和7年7月：必要物品等実施準備
令和7年8月～令和8年2月：実施
（内訳：8月1回、12月1回、2月1回、計3回）
令和8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定として、アイストレー、フリーザーバック、バケツなどを用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

テーマ色水にて「色水で氷は作れるかな？」テーマ形状の変化①スライムにて「スライムを凍らせたらどうなるかな？」という子どもたちから発せられた疑問を問いとして設定する。氷、スライム氷を試行錯誤しながら解かし、解けていく形の大きさや過程、感触などの変化を探究する。

外で氷の様子を観察する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【色水・スライムのつづき】

・自分たちで作った色水で半分製氷器に入れ氷を作り、半分はスライムを作る。その後、スライムをさらに半分にして凍らせた。

【スライム氷】

・凍らせたスライムを出す。

→早く解けるよう太陽にかざしたり、徐々に解けていく感触を楽しんだりする。

・早く解かしたくて、割ったり細かく潰したりしながらスライム氷を解かす。

・解けたスライムで遊びを楽しむ。

→凍らせる前に比べると細かく切れることが多かった。

(普通のスライムの方がよく伸びる)

【氷】

・色水を凍らせ氷ができる。

・氷全体に色が付くのではなく、一部分に色が集まっている事に気付く。

・缶の中に出し、触ったり、氷が解ける様子を楽しむ。

・缶を揺ると早く氷が解けることに気付き繰り返し揺すっている。

・だんだん氷が解けて小さくなっていることを喜んでいる。

・最終的に全て解けて色水に戻った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【スライム氷】

- ・解けたスライムで遊びを楽しむ。
→凍らせる前に比べると細かく切れることが多かった。
(普通のスライムの方がよく伸びる)

【氷】

- ・色水を凍らせ氷ができる。
- ・氷全体に色が付くのではなく、一部分に色が集まっている事に気付く。
- ・缶を揺ると早く氷が解けることに気付き繰り返し揺すっている。
- ・だんだん氷が解けて小さくなっていることを喜んでいる。
- ・最終的に全て解けて色水に戻った。